

キリスト教の歴史的展開

— 日本史の中で —

カトリック

- 1549年、フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸。
- 1637-1638年、島原の乱
- 江戸幕府はキリシタン禁制を強め、鎖国へと向かう。

2

近代日本において

- 開国以降の変化
 - 1854年、開国とともに、各教派の宣教師の来日が始まる。
 - 1873年、禁制の高札を撤去して布教を黙認。

3

近代日本において

- 1889年、大日本帝国憲法の発布。条件つきながら「信教の自由」が保障されたので、これ以降キリスト教各派の布教は本格化する。
 - 第28条「日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス」

4

キリスト教の影響

- 知識人を中心に影響を与えた。
 - 作家: 北村透谷、国木田独步、島崎藤村、有島武郎、正宗白鳥
 - 社会主義運動家: 片山潜、荒畑寒村
 - 民本主義を提唱した吉野作造
 - 労働組合運動やセツルメント運動を指導した賀川豊彦
 - 婦人運動の市川房枝
 - 救らい運動に献身した岩下壮一(カトリック)

5

キリスト教の影響

- 明治時代後半から大正時代にかけては、プロテスタント系の社会運動が大きく発展した。
 - 貧民救済に献身した救世軍 山室軍平
 - 廃娼運動や足尾鋇毒問題に尽力した作家の木下尚江
 - 少年感化や監獄改良運動を推進した留岡幸助
 - 初期社会主義運動の指導者のひとりである安部磯雄

6

キリスト教の影響

- 民本主義を提唱した吉野作造
- 労働組合運動やセツルメント運動を指導した賀川豊彦
- 婦人運動の市川房枝
- 救らい運動に献身した岩下壮一（カトリック）

7

キリスト教の影響

- 大正デモクラシーの展開に大きな影響を及ぼした。

8

近代日本における宗教と文明

- 宣教師の宗教観・文明観
 - 宗教的救済は文明の形成に先行する。
- 世俗的知識人の宗教観・文明観
 - キリスト教を経由することなく文明に至ることは可能。

9

近代日本における政教分離

国体イデオロギー

国民道徳と宗教は一体となって機能した。ただし、後者の価値は前者を基準にして計られた。

道徳＝公的領域

– 国家神道、教育勅語 –

宗教＝私的領域

– 仏教、キリスト教等 –

10

戦争協力へ

- 国家神道を中心とした「反西洋」的な文化・文明の模索
 - 大東亜共栄圏構想
 - 仏教もキリスト教も、ナショナリズムに巻き込まれていく。
 - 同志社も例外ではなかった。

11

愛国心と信仰

- 国家への忠孝（愛国心）とキリスト教信仰は両立し得ると考えた。「日本的キリスト教」の形成。
- 1941年、宗教団体法のもと、日本基督教団が成立
 - 同志社の源流である組合教会も合流。

12

教会の戦争責任

- 1967年、日本基督教団「第二次世界大戦下における日本基督教団の責任についての告白」

13